

主要事業評価シート(第2次実施計画 / R1・2・3年度)

基本事項	計画コード	事業名	部名	総合政策部
	17095	行政情報番組提供事業	課名	政策課 広報秘書G
	施策の大綱	05:市民力・地域力の活性化	財務科目	01:一般会計
	基本施策	02:市民参画・協働の推進と多様な交流活動の促進	款	02:総務費
	施策の方向	01:市民参画・協働の推進	項	01:総務管理費
戦略プロジェクト	-	目	02:広報活動費	
事業予定期間	H 15 ~ R - 年度	主な根拠法令要綱等		

目的・概要	対象	ケーブルテレビ加入世帯
	目的	動画の特性を生かして、市の各種施策・制度やイベントなど地域に密着した情報を、より分かりやすく提供することで、市民のまちづくりへの参画を促進する。また、番組づくりへの参画や動画による本市の魅力の再認識により、自分たちの暮らすまちに対する愛着を高める。
概要		市の各種施策・制度やイベント情報などを盛り込んだ行政情報番組を制作し、毎週更新して放送する。特に、市民アナウンサーや中高生アナウンサーの活用、市民活動団体の出演協力を得て、市民に親しまれる番組づくりを行う。平成23年度に導入した文字情報放送機器について、メーカーサポート期間の終了に伴い、今後も安定して文字情報を放送するため、機器更新を行う。

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
事業の計画・実績	年度計画	行政情報番組制作及び放送管理 ・年間番組制作・放送(毎週更新) ・市民アナ、中高生アナ等の活用 ・伊賀市・甲賀市との番組連携 文字情報の提供及びシステム管理 ・イベント、募集情報の提供 ・緊急情報(災害、選挙等)の提供 ・文字情報放送機器の更新準備	行政情報番組制作及び放送管理 ・年間番組制作・放送(毎週更新) ・市民アナ、中高生アナ等の活用 ・伊賀市・甲賀市との番組連携 文字情報の提供及びシステム管理 ・イベント、募集情報の提供 ・緊急情報(災害、選挙等)の提供 ・文字情報放送機器の更新	行政情報番組制作及び放送管理 ・年間番組制作・放送(毎週更新) ・市民アナ、中高生アナ等の活用 ・伊賀市・甲賀市との番組連携 ・スタジオセット改修 文字情報の提供及びシステム管理 ・イベント、募集情報の提供 ・緊急情報(災害、選挙等)の提供	
	年度実績	○行政情報番組制作及び放送管理 ・年間52番組(通常48回、タイシエイト4回) 市民アナ39回、高校アナ7回、中学生3回 小学生(初企画)3回 市民アナ等出演協力14回 ・「となりまちいにか」番組交換4回 ○文字情報の提供及びシステム管理 ・定期放送207回、緊急放送は随時放送			
事業の計画・実績	計画額	事業費	25,400千円	30,500千円	25,600千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	予算額	事業費	25,300千円	0千円	0千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	決算額	事業費	25,032千円	0千円	0千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
人件費	総人件費	3,925千円	0千円	0千円	
	一般職員	3,925千円	0千円	0千円	
	所要人員	0.50			
	会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円	
総コスト(+)		28,957千円	0千円	0千円	
受益者負担率		0.0%	0.0%	0.0%	

			令和元年度	令和2年度	令和3年度
指標	名称	年間番組制作数	計画値 52	52	53
		毎週更新し、1年間継続して放送した場合の番組制作数	実績値 52		
			単位 番組	番組	番組
	名称	番組制作に対する市民参回回数	計画値 60	62	64
		市民アナウンサー、中学生アナウンサー、高校生アナウンサー、市民活動団体等の番組への出演回数	実績値 66		
			単位 回	回	回
名称	市外への番組提供回数	計画値 4	4	4	
	伊賀市、甲賀市との広域連携に基づく市外での番組放送回数等	実績値 4			
		単位 回	回	回	

事業の改善	前評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 市民や中高生アナウンサーの活用を継続するとともに、市民や市民活動団体の方の積極的な番組づくりへの参画を促し、市民に親しまれる行政情報番組を制作する必要がある。また、市シティプロモーション戦略の考え方を踏まえ、市民や市民活動団体など自らがまちの魅力を発信したり、まちに対する愛着や誇りが高まるような番組づくりを行う必要がある。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 市民アナウンサーの募集や、中学校、高校へのアナウンサーの協力依頼に加えて、番組づくりに対する新たな参画として、小学生アナウンサーの出演を企画・実施した。また、イベント告知など番組制作の企画段階から市民や市民活動団体などの出演を意識しながら企画調整を行った。さらに、まちに対する愛着の醸成を目指して、日本書紀編さん1300年の節目を契機に、日本武尊・弟橘媛ゆかりの地を紹介する動画を制作した。

		評価	(判定)
事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 市民アナウンサーや中高生アナウンサーに加えて、初めて小学生をアナウンサーを起用し、年間を通じて計画的に番組づくりを行った。また、市の創業支援策を活用して創業した方の実際の声や日頃の働く姿をまとめた番組や、市民活動団体が出演してイベント告知を行う番組を制作した。さらに、市の環境政策を支えた総合環境研究センターのあゆみや、日本書紀編さん1300年の節目を契機に本市に縁のある日本武尊・弟橘媛を紹介する番組を特集番組として制作した。一方で、伊賀市・甲賀市との広域連携を通じてイベント告知番組を計画的に交換・放送した。また、広報かめやまに掲載した情報を定期的にフル画面の文字情報として放送したほか、災害情報などは字幕やL字機能を使って随時情報を発信した。	A 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 小中学生や高校生に番組アナウンサーを担ってもらうとともに、市民や市民活動団体等の出演協力を得ることで、幅広い世代に親しまれる番組づくりに繋がった。また創業者や市民活動団体等自らが番組に出演してもらうことで、市民目線の共感性の高い番組を制作することができた。さらに市の様々な取り組みや地域資源を活かした番組の制作・放送により、まちの魅力を再認識していただく機会となった。一方で、制作した動画をシティプロモーション専用ホームページに掲載したり、伊賀市・甲賀市と番組交換することで、本市の情報を市外へも発信することができた。	A 十分な成果を得た

今後の対応方針	課題	【課題は何か】 市民や学生アナウンサーの活用を継続するとともに、若者など新たに番組づくりに関わる人を増やし、幅広い世代に親しまれる行政情報番組を制作する必要がある。また、市シティプロモーション戦略の考え方を踏まえ、市民や市民活動団体など自らがまちの魅力を発信したり、まちに対する愛着や誇りが高まるような番組づくりを行う必要がある。	今後の方向性 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 【その他の場合、その内容を記載】
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 市の各種広報発信に対して、より多くの方に関わっていただけるよう、広報サポーター制度を整備して、番組づくりに対する新たな参画を呼び掛ける。一方で、番組制作の企画段階から市民や市民活動団体などに出演していただく機会がないかを意識しながら調整を行う。また、まちの魅力を再認識に繋がるような番組制作を意識する。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 市民や市民活動団体等が番組制作に関わることで、親しみやすい番組づくりに繋がり、市政情報などを広く周知でき、まちへの愛着の醸成が図られる。若者やまちを愛する人が番組づくりに関わっていただくことで、ふるさとに対する想いやこのまちに住み続けたい、このまちの魅力をアピールしたいという気持ちが高まることが期待できる。	
対応時期		令和2年度	

【1次評価者】	総合政策部 政策課 広報秘書グループリーダー 松岡 保範
【最終評価者】	総合政策部 政策課長 笠井 武洋

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	A	A	A		
	成果	A	A	A		

令和元年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		25,300 千円
内訳	平成30年度からの繰越額	千円
	令和元年度の最終予算額	25,300 千円
	令和2年度への繰越額	千円